活動名　（一社）ななお・なかのとＤＭＯの地域連携観光戦略プラン作成支援

団体名　　「専門ゼミナールⅠ（捧）」
代表者名　人文学部国際文化学科・捧　富雄

はじめに

捧ゼミナールは経済学部の「専門ゼミナールⅠ」において、2016 年度は和倉温泉地域を対象とした「電動アシスト自転車を用いた散在する観光資源の有効活用について」、2017 年度は「中能登町における観光・交流振興プランの作成と交流イベントの企画・実施支援」をテーマとした活動を行った。これらの活動は、いずれも大学コンソーシアム石川「地域課題研究ゼミナール支援事業」に採択された。

一方、2018 年 11 月に、七尾市および中能登町の観光地域づくりを推進する法人として一般社団法人ななお・なかのとＤＭＯが設立され、今年度から本格的な事業を開始した。そこで、学生の観光地域づくりについての実践的な学修機会を確保するため、同法人の事業への協力支援を申し出たところ、今年度事業の一環として地域連携観光戦略プラン作成を予定しており、学生に基礎資料となる調査を体験させたいということから、地域連携観光戦略プラン作成を支援することとした。

しかし、一般的に「観光戦略プラン」は広範囲にわたる施策が必要となる。たとえば、誘致対象としての観光旅行者についても、日本人なのか外国人なのか、また、日本人であっても年齢や同行者などによって興味・関心が異なり、対応策は変わってくる。これらすべてに対応した施策を検討することは、学生の経験度やゼミ活動という時間的な制約などから無理がある。

したがって、本研究調査活動は、留学経験がある人文学部の学生を中心としたゼミ活動であることを勘案し、外国人および若年層の観光旅行者をターゲットとし、七尾・中能登地域への観光旅行者誘致を図るための戦略プランを検討することとした。

活動内容

当初の予定では、4回の現地調査および参考事例のフィールドワーク（１回）を実施し、その成果をとりまとめて12月に報告会を行うとともに、3月までに報告書を作成することとしていた。また、金沢市内において外国人旅行者に対し七尾・中能登地域の知名度やイメージなどについて調査を行う予定だった。

しかし、後期になってさまざまな要因から十分な活動が出来ず、10月に予定していた4回目の現地調査および報告会は実施できなかった。また、金沢市内における外国人旅行者を対象とした調査も不十分なものとなった。以下、実施した活動の内容について述べる。

①第１回現地調査

2018年6月23日（土）に実施。参加学生5名（人文学部生4名・経済学部生1名）。

調査の前までに七尾・中能登地域についての文献調査を行い、学生の問題意識を高めるとともに対象地域に関する知識を増やした。その上で、学生が訪れたいスポットの中からいくつかを選び巡見した。訪れた場所は、赤蔵山憩いの森（御手洗池）～和倉温泉中心部～能登食祭市場（一本杉通りや「花嫁のれん館」などを歩いて巡る）～道の駅・織姫の里なかのと～不動の滝などである。いずれの場所も学生が思っていたほどの人出がなく、とくに外国人や若者の姿がほとんどないことで、学生の問題意識を高めるとともに対象地域の観光振興を図る上での問題点を発見するなどした。

②第２回現地調査

2018年8月9日（木）に実施。参加学生5名（人文学部生4名・経済学部生1名）。

七尾市及び中能登町、（一社）ななお・なかのとDMOの方々から地域の現状や、外国人や若者誘致に関する取り組みなどについてのお話を伺うとともに、「のとじま水族館」および石動山（大宮坊・伊須流岐神社）などを巡見した。

成果として、七尾市および中能登町の観光の現状や観光・交流振興に対する考え方の違いを認識するとともに、地域資源が数多くあるがそれらの魅力をどのように発信していくか、二次交通の改善をどのように図るかなどの課題が明らかになった。

（のとじま水族館にて）

③第３回現地調査

2018年8月27日（月）～28日（火）の1泊2日で実施。参加学生4名（人文学部生3名・経済学部生1名）。

「能登食祭市場」において観光客を対象としたアンケート調査を行うとともに、和倉温泉観光協会および加賀屋でのヒアリングや「能登島ガラス美術館」「能登上布会館」「中能登町デザインセンター」などの見学研修を行った。成果として、学生の調査対象地やホスピタリティに関する知見を高めるとともに、プラン作成のヒントを得ることができた。

（「能登食祭市場」でのアンケート調査）

④岐阜県高山市などにおける先進事例フィールドワーク

七尾・中能登地域への外国人旅行者誘致施策を検討する参考とするため、外国人観光客や若年層の誘致に積極的に取り組んでいる高山市や、世界遺産の白川郷などでのヒアリングおよび視察調査を、2018年9月10日（月）～11日（火）の1泊2日で行った（参加学生5名：人文学部生4名・経済学部生1名）。

高山市では、海外戦略課の方から海外戦略や外国人旅行者への対応策を、観光課の方から若者誘致策についての考え方や取り組みなどについてお話を伺い、市内の観光対象（「高山祭屋台会館」、「三之町」、「高山陣屋」、「飛騨高山まちの博物館」、「高山昭和館」、「飛騨の里」）などを視察研修し、その後、白川村の世界遺産「白川郷」を視察した。

高山市および白川郷の調査からは、外国人旅行者の誘致は一朝一夕にはできないことや、無料Wi-Fiや多言語パンフレットの整備といった情報提供のあり方、若いころに来たという経験がリピート利用につながるといった若年層誘致の考え方など、観光振興を図る上で学生が学ぶことが多くあった。

（高山市での先進事例調査）

⑤金沢市における外国人旅行者へのヒアリング

石川県内で外国人旅行者が多く訪れる金沢市で、七尾・中能登地域の認知度などを調査することを計画した。とはいっても、外国人旅行者にやみくもに声をかけてヒアリングできるわけではない。このため、ＪＲ西日本㈱のご協力をいただき、齋藤ゼミ・田中ゼミとともに6月12日～30日午前中に金沢駅のＪＲバス乗り場でバス乗車の案内活動を行うこととし、これに併せて能登地域の認知度などの調査も行うことにした。捧ゼミは交代で、6月13～15日および21日の4日間を担当した。しかし、バスの乗車案内で手一杯の状態で、能登地域についての認知度などを尋ねる余裕がなく、本研究調査の成果にはつながらなかった。

⑥報告書の取りまとめ

後期からは、アンケートの集計・分析や収集した資料の整理・検討に加えて、市販のガイドブックや関係機関のＨＰでの七尾・中能登地域の観光対象の紹介記事やTripadvisorへの書込みの分析、新たな事例についての文献調査などを、メンバーが手分けして行った。

アンケートは45票の回答が得られたが、年代としては中高年層が多く、20代は5票（11%）、30代6票（13%）だった。また、英文のアンケート用紙も用意したが、外国人旅行者がほとんどいなかったため、回答はすべて日本人であった。しかし、「最大の楽しみ」が「食」（34%）や「温泉」（22%）であること、「満足度」が高く、再来希望者が多いこと、情報入所手段としてSNSを含めたインターネットや“ロコミ”、ガイドブックなどの比率が高いことなどが明らかになった。

市販のガイドブックについては、若い層の利用が多いと考えられるムック版の観光情報誌（「るるぶ」「まっぷる」）の北陸や石川県版、ホームページ（ＨＰ）は石川県、七尾市、中能登町などを分析した。さらに、ほかの地域の新たな事例調査としては、京都市や長野県、岡山県の情報提供に関する取り組みなどを調べた。

こうした調査研究に基づいて「ＳＮＳを活用した情報提供」、「若者誘致キャンペーン」、「外国人旅行者と地域住民の交流促進」、「食フェスの開催」、「体験型観光を組み入れたモニターバスツアー」「その他の主要施策の考え方」といった項目について提案をまとめている。

成果、結果の考察

本活動は学生に対しては、「英語力や調査能力などのスキルの向上」、「プラン作成を通して論理的な思考方法の修得」、「各地の事例などを通した知識の増進」、「いろいろな人々との交流を通したホスピタリティの涵養」を通して地域への誇りを持った人材を育成するといった成果を目指した。また、地域に対する成果としては、若い世代の視点から地域の魅力の再発見とそれを活かした提案を行うことであった。これらの成果が十分に達成できたとはいえないが、ある程度の前進が図れたのではないかと考えている。

今後の課題、展望

今年度の調査研究活動は、テーマを絞ったつもりであったが、計画づくりに未経験な学生にとっては、広範囲の調査研究が必要となり、成果品としての報告書の内容を深く掘り下げることが出来なかった。また、スケジュール的にも、後期の分析や結果の取りまとめなどが不十分な面があった。今後のゼミ活動については、これらの反省を生かして進めたいと考えている。